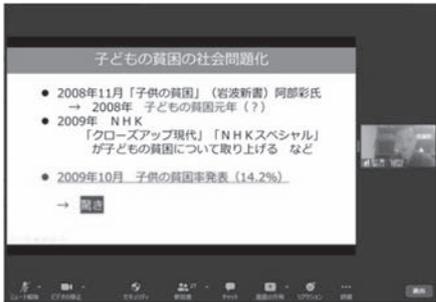


IV. 2021年度 立教サービスラーニング（RSL）センター実施事業等一覧

□RSLセンター受託事業

事業名	香蘭女学校高等科3年生「校外学習」への協力 （「香蘭女学校×立教RSLセンター ギャップイヤープログラム 2021」） 主催：香蘭女学校 共催：立教サービスラーニングセンター
日程 場所	2022年2月21日（月）・2月22日（火）・2月25日（金） 香蘭女学校 計6校時
趣旨	聖公会関係学校のひとつである香蘭女学校より、立教大学に進学が内定している高等科3年生を対象にした校外学習の実施について協力依頼を受けた。 香蘭女学校における2021年12月から2022年3月までの「校外学習」授業期間を活用し、立教大学入学後の学生生活をイメージし、香蘭での教育をもとに立教大生として活躍できる基礎作りを行うことを目標として複数のプログラムを実施する。特に初年次教育として展開しているRSL科目「大学生の学び・社会で学ぶこと」のエッセンスを受講することを通して上記目標の達成を目指す。 受講する生徒にとっては、大学入学前の学習機会となり、香蘭女学校での学びを「立教大生」としての学びへと結びつける貴重な機会になると考えている。
担当者	○オーガナイザー 清水 由起子（香蘭女学校教務部長） 藤井 満里子（RSLセンター助教） ○各授業担当者 中川 英樹（本学チャプレン） 山中 淑江（本学カウンセラー/現代心理学部教授） 逸見 敏郎（RSLセンター センター長/文学部教授） 藤井 満里子（RSLセンター助教） 吉田 穂波（産婦人科医/神奈川県立保健福祉大学教授）
対象生徒 及び協力者	立教大学への進学が内定している香蘭女学校高等科3年生（97名）
内容	□2/21（月） ・1時限（09:00～10:40）「キリスト教、聖公会と立教大学」/中川英樹 ・2時限（10:50～12:30）「キャリアデザインからみた大学4年間」/藤井満里子 □2/22（火） ・1時限（09:00～10:40） 「大学生が会えるリスクとセルフマネジメント」/山中淑江 ・2時限（10:50～12:30） 「大学生の学びと自己形成/2日間のまとめ」/逸見敏郎 □2/25（金） ・1～2時限（9:30～10:30、10:40～11:30） 「リプロダクティブ&ライツと受援力を身につける」/吉田穂波 ※RSLセンター編集2017『リベラルアーツとしてのサービスラーニング』（北樹出版）にもとづき、RSL科目「大学生の学び・社会で学ぶこと」の前半部分のエッセンスを扱う。 ※2021年度はCOVID-19感染拡大の影響により、例年立教大学で実施するプログラム（香蘭女学校の生徒と立教大学の学生との交流プログラム他）の実施は中止となった。 今年度の本プログラムは全て、香蘭女学校での対面授業として実施した。

□RSL センター企画事業（立教大学ボランティアセンターとの協同企画）

事業名	立教サービスラーニングセンター・ボランティアセンター協同企画 公開講演会「学生ができる社会活動(入門編)—池袋地域の学習支援事業の実際を知ろう!—」
日程	2022年3月3日(木) 13:00~15:00 (オンライン[Zoom]開催)
講師	松宮 徹郎氏 (池袋市民法律事務所・弁護士、子どもサポーターズとしま学習支援会「クローバー」、NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事)
企画趣旨	<p>立教大学では、社会連携教育課のなかで、正課教育を担うRSLセンターと正課外教育を担うボランティアセンターが相互に協力連携しながら、立教ラーニングスタイルに基づき「正課教育」と「正課外教育」の往還を促進することを意図して活動している。両センターの知見を活かし、今年度、初めての協同企画を開催することとなった。</p> <p>今回は学生の関心が高く、実際に大学生が社会的課題の現場で活躍している「学習支援」をテーマとして設定した。主に相対的貧困・学習支援をテーマとする「RSL-コミュニティ(埼玉)」や池袋地域における多文化共生を主題とする「RSL-コミュニティ(池袋)」を履修した学生、ボランティアセンターが束ねるボランティアサークルで学習支援を行っている団体の学生を中心に積極的に参加を呼び掛けることにより、RSLセンターとボランティアセンターが目指す「正課教育」と「正課外教育」の往還、つまり立教ラーニングスタイルの実践の機会とすることを企図した。</p> <p>今回は弁護士の立場から池袋地域における「子どもの貧困」の問題に取り組む松宮徹郎氏を講師として迎え、池袋地域における「子どもの貧困」問題の現状や松宮氏が設立・運営に携わる無料学習教室の活動、学習教室のなかで大学生が担っている役割について講演いただくこととした。松宮氏が無料学習教室の設立に関わるようになった経緯や弁護士の視点からみえる池袋地域の課題などについて具体的な事例を交えてお話を伺うことをとおして、参加学生が池袋地域にある社会的課題を知り、さらにその社会的課題に対して自分自身がどのように関わることができるかといったことを考える場となるよう、講演後に講師と参加者(学生)間での意見交換の場を設けた。</p>
参加者	学 生：18名 その他：大学関係者 9名
当日のプログラム	<p>13:00~ 趣旨説明 (5分) 13:05~ ゲストスピーカーによる講演 (40分) 13:45~ 休憩 (5分) 13:50~ 学生セッション (30分、自己紹介含む。ブレイクアウトセッション) 14:20~ 講師と学生とのセッション(質疑応答含む) (40分) 15:00 クロージング、RSLセンター・ボランティアセンターの紹介</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

□発表（学会またはフォーラム等）

フォーラム	日本サービス・ラーニング・ネットワーク 第5回 サービス・ラーニング全国フォーラム 「学びの深まりを促すためにパートナーシップの構築はどうあるべきか」
日程	2021年5月23日(日)10:00～15:30（オンライン[Zoom]開催）
趣旨	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大は、今なお、われわれの生活に大きな影響を及ぼし続けています。サービス・ラーニングも、コロナ禍に大きな影響を受けました。多くの移動制限は、われわれの研究活動を不自由なものとするだけでなく、何よりも、社会における体験を基盤に成立するサービス・ラーニングは、体験なしのサービス・ラーニングの計画・実施という重大な困難性に直面することになりました。</p> <p>今回の第5回大会では、「パートナーシップ」をテーマに設定しました。関連する言葉に「連携」がありますが、ここでは「パートナーシップ」をそれとは異なる意味から捉えることにします。“partnership”の日本語訳としては、「協働」が適切であると考えます。表面的・部分的・一方的な連携ではなくて、本質的・全体的・双方向的な協働を、サービス・ラーニングでどのように構築していく必要があるのでしょうか。また、その結果として生み出される互恵的な学びの深まる中で、子ども・若者、学校、地域はそれぞれどのように成長・発展を遂げるのでしょうか。いくつかの事例発表に基づき、シンポジウムで集中的に協議したいと思います。</p> <p>シンポジウムに続いて実施される分科会では、二つの内容を用意しました。第一に、2021年で発生後10年を迎える「東日本大震災」の教訓を忘れることのないように、震災・災害とサービス・ラーニングの関係性を協議する場を設けました。そして、第二に、実践・研究交流として、日本におけるサービス・ラーニングの実践・研究の発展を期して、全国フォーラムでは初めて、自由実践・研究発表の要素を有する分科会を企画しました。</p> <p><出典> 日本サービス・ラーニング・ネットワーク HP SL 全国フォーラム 第5回開催要項より引用 (https://www.jsln.org/_files/ugd/6c97df_965ce05b6aab407eae6ab44ba71487e2.pdf) ※教育研究コーディネーターの福原充・大森真穂が第2分科会に参加し、発表した。</p>
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 開会 2) 全体シンポジウム 『学びの深まりを促すためにパートナーシップの構築はどうあるべきか』 3) 分科会 <ul style="list-style-type: none"> ○第1分科会「東日本大震災10年へのリフレクション～風の人から土の人となったサービス・ラーニング受講生と共に」 ○第2分科会「実践・研究交流」 サービス・ラーニングに関わる実践や研究を持ちより会員間で交流を深めます。会員が蓄積している実践や研究、コロナ禍での新たな試みなどを持ち寄りながら、サービス・ラーニングの今と未来について語り合います。 <ul style="list-style-type: none"> ・報告者 馬場洸志（追手門学院大学） 「サービス・ラーニングコーディネーターによる教育実践」 ・報告者 長谷川愛（関西学院大学大学院） 「卒業生のライフストーリー再考から学びの深化を促す要因」 ・報告者 福原充・大森真穂（立教大学サービス・ラーニングセンター） 「コロナ禍におけるサービス・ラーニングの実践報告：運営スタッフの視点からみた課題を中心として」 4) 全体共有・閉会 <p>※紙幅の都合上、全体シンポジウムと第1分科会の報告者等の記載や内容の詳細は割愛した。</p>

フォーラム	日本シティズンシップ教育フォーラム (J-CEF) J-CEF スタディ・スタジオ online Vol.14 「主権者教育における高大接続改革を考える－立教サービスラーニング (RSL) / 「シティズンシップを考える」の実践から (2021 衆院選を素材に)－」
日程	2022 年 3 月 13 日 (日) 10:30~12:00 (オンライン[Zoom]開催)
趣 旨	<p>学習指導要領の改定、今年 4 月に予定されている成年年齢の 18 歳への引き下げにみられるように、如何にして「主権者として必要な資質・能力を確実に身に付けていくのか」ということについて、日本国内における主権者教育の論点としての重要性が高まっています。</p> <p>また、主権者教育推進会議 (文部科学省) において報告された、「今後の主権者教育の推進に向けて (中間報告)」 (2020 年 11 月) では、「大学段階における主権者教育の在り方」が今後の残された検討課題の一つとして位置づけられ、高大接続改革にも注目が集まっています。</p> <p>現在の主権者教育は、幼少期から青年期といった教育段階における縦の連続性ととともに、地域との協力・連携も含めた、まさに「社会総がかりでの「国民運動」としての主権者教育推進」が求められているといえます。</p> <p>本セッションでは、これまで政府の主権者教育推進会議の委員を務められ、高大接続改革にも取り組まれている小玉重夫氏 (東京大学) にご協力いただき、「主権者教育と高大接続改革」について考えていきます。2016 年度から小玉氏が立教大学で担当されている立教サービスラーニング (RSL) 科目における「シティズンシップを考える」 (講義系科目) では、本年度、先の衆議院議員選挙において各政党が公表した政策公約を題材として大学生と高校生がアクチュアルな社会的課題を自らの関心に引き付けて議論を行いました。この実践報告を中心とする話題提供にもとづいて、大学段階における主権者教育のカリキュラムデザインや中等教育・高等教育における主権者教育の新しい可能性、コロナ禍も含めた今後の主権者教育のあり方や現在地などについて、皆さんと議論できればと考えております。</p> <p><出典> J-CEF HP より (http://jcef.jp/news/bosyu/20220211_1724/) ※教育研究コーディネーターの福原充・大森真穂が参加し、発表した。</p>
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1) オープニング 2) 話題提供 (報告タイトルは仮題) <ol style="list-style-type: none"> (1) 小玉重夫さん (東京大学大学院教授) 清水彩乃さん、石山綾香さん (立教大学学生) 「大学段階における主権者教育と高大接続について」 (2) 中田奈穂美さん、津坂登紀子さん (香蘭女学校教員) 田中花蓮さん、中里朱里さん (香蘭女学校生徒) 「高大接続への取り組みからみえてきた高校生の学び」 (3) 福原充さん、大森真穂さん (立教大学立教サービスラーニングセンター教育研究コーディネーター) 「大学での新たな学びの可能性－高校生との共同学習の体験報告－」 (4) 藤枝聡さん (立教大学総長室次長) 「高大接続を組み込んだ大学シティズンシップ教育のカリキュラムデザイン」 3) 全体ディスカッション 4) クロージング <p>※紙幅の都合上、内容の詳細は割愛した。</p>